

1. スタッフ構成

- 鶴田 寛二(感染症内科医長、地域医療キャリア形成支援センター兼務)
- 山岡 傳一郎(診療委託)
- 寺野 友美(診療委託)

2. 実績

外来患者数:1,971名
うち、初診:106名、再診:1,865名

3. 2023年度目標

2023年度は、昨年同様の診療体制で、月曜日(山岡)、火曜日(寺野)、木曜日(鶴田)の3日間とさせていただきます。昨年度は、院内、院外から Long COVID やワクチン後遺症の患者さんをご紹介いただき診療させていただきました。結果として、2疾患ともに運用できる、5タイプの治療戦略で対応いたしました。

- I:呼吸器症状残存タイプ:柴陥湯など運用
- II:易疲労残存タイプ:清暑益気湯など運用
- III:易感染性残存タイプ:解毒症処方、および滋陰降火湯運用
- IV:副交感神経亢進タイプ:苓桂朮甘湯、真武湯など運用
- V:自然観察タイプ:無治療、無処方養生を主体とする

具体的には、国内および国外の日本東洋医学会にて発表させていただきました。

その他、漢方診療の適応と思われる症例につきましては、院外、院内から、特定の領域に限定せず、先生方からご用命いただければ、全力で漢方鍼灸治療を実施させていただきます。治療の方針としましては、漢方診療は、主として煎じ薬(自然の草根木皮を使った漢方治療)を行い、エキス剤への移行が可能となった際には、地域の医療機関と連携させていただきます。鍼灸治療の適応の場合には、鍼灸治療室でクール体制(1クール6回の診療でクール毎に評価する方法)で行い、地域のホーム・ドクターとの連携のもとで診療をさせていただきます。患者さん1人ひとりのQOL(生活の質)を高められるような診療を目標にしています。

昨今では、学会発表が国際化され、東洋医学の発想は、日本や中国など東アジアの発想より、むしろ、欧米の発想の方が理解しやすくなっております。2022年4月には、オックスフォードのデニス・ノーブル名誉教授の *Dance to the Tune of Life* を共同翻訳し、『命の調べのダンス』として発刊しましたが、その中には、今まで理解しにくかった、心身一如の概念が、条件付き生起(conditioned arising)と提示され、システムズ・バイオロジーから東洋医学が説明しやすくなってまいりました。

最後に、当科で東洋医学専門医研修指定病院として、各科専門医となった先生が、新たに東洋医学の専門医を目指して研修中ですので、共同診察させていただきますことをご了承ください。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. Denichiro Yamaoka. Acupuncture in Japan, Europe, and America~Looking Back on History and Talking About the Future of Acupuncture and Moxibustion in Japan and world~. 1st International Symposium on Kampo Medicine. Web開催 (2022.8.26-27)
2. Denichiro Yamaoka. SHANG HAN LUN (On Cold Damage) as A System~Why Zhang Zhong-Jing wrote SHANG HAN LUN?~. 1st International Symposium on Kampo Medicine. Web開催 (2022.8.26-27)
3. 山岡傳一郎. 生薬の歴史と世界~今コロナの時代に考える~(特別演題). 第32回日本東洋医学会中四国支部島根県部会. Web開催 (2022.10.16)

(2) 論文・著書

1. Kyoko Takahashi, Hajime Mizukami, Kenny Kuchta, Tetsuhiro Yoshino, Denichiro Yamaoka. Medicinal plant garden in Japan, the world, and the future "1st International Symposium on Kampo Medicine". *Traditional&Kampo Medicine* 9(2). 136-137 (2022.8)